

◆資源・環境対策事業

漁協・漁業者主体の資源管理構築（ナマコ・ヒトエグサ）

水産海洋技術センター 紫波俊介、諸見里聰

1. 目的

本活動は、久米島においてナマコ類資源の持続的利用、有効活用を図るため、同地で主に漁獲されるトゲクリイロナマコを主対象として、漁協・漁業者が継続して実践できるナマコ類の漁業制限を構築していくことを目的とし、漁業制限の代替収入としてヒトエグサ養殖の導入を図った。

2. 方法

下記取組を漁業者・漁協職員と共に実施した。表題のとおり漁協・漁業者自らが主体となり考え・実行に移すことが大目標であるため、それらが妨げられないよう十分に留意した。

（1）ヒトエグサ養殖の実施

- ①生産部会設立
- ②養殖指導
- ③加工指導

（2）ナマコ資源調査及び資源管理報告会

- ①ナマコ資源調査
- ②資源管理報告会

3. 結果

（1）ヒトエグサ養殖の実施

①生産部会設立

昨年度仲与志勇漁業士、伊関亜里砂組合員、譜久里長徳会計主任等の尽力により養殖に目処が付き、渡名喜盛二組合長より部会立ち上げの意向が示されたため、協力を行った。

会計主任・漁業士等と久米島漁協地域特性について話し合い、漁協一元集荷・イノー漁業振

興を部会規約の中に盛り込むこととした。

準備委員会開催後、8月25日に久米島漁協アーサ養殖生産部会が設立され、部会員21名、会長に田端祐二漁業士、副会長に糸数洋組合員が選出された。

②養殖指導

現地巡回の他、インターネットを用いて情報交換・指導した。また適宜先進地視察等下記取組を行った。

仲与志・伊関組合員が養殖網一枚当たり22kgと、目標としていた20kg/枚を超えた。

各活動は、生産部会活動が活性化するように留意し取り組んだ。

ア) ナマコ資源管理・ヒトエグサ養殖先進地視察

別項「ナマコ資源管理・ヒトエグサ養殖先進地視察」参照のこと。

イ) 佐敷中城漁協北中城支所・恩納村漁協種付け視察

11月11日に部会役員と共に、北中城支所棚原盛昌・田仲康信組合員、恩納村漁協登川朝夫・又吉直樹組合員の種付け状況を視察。北中城では、登川・又吉組合員、岩井主任研究員も交え、様々な意見交換を行った。

ウ) 恩納村漁協本張り視察

1月17日に部会役員と共に、恩納村漁協登川組合員の本張り状況を視察した。

エ) 本島生産者養殖技術指導

2月11・12日に北中城支所田仲康信組合員を久米島に招聘し、漁場・加工視察と助言を頂いた。また、組合長始め部会員と情報交換会を設けた。

オ) 久米島漁協産養殖アーサPR

2月11・12日に部会にて企画・実施された久米島小学校6年生へのアーサ収穫体験学習の様子を

広く周知し、養殖アーサPRが出来るよう、記者クラブへ投げ込みを行い、当日の支援を行った。

③加工指導

巡回時に漁協職員等へ加工方法の指導を行ったほか、加工場設備への助言を行った。

北中城支所長濱加工場長の協力の下、久米島生産物の評価および品質向上アドバイスを頂いた。また、2月25日に部会員および会計主任と共に、北中城支所にて宮城博支所長・長濱加工場長と意見交換し、品質や加工方法について助言を頂いた。同時に、北中城支所と連携した加工販売を行う事となった。

(2) ナマコ資源調査及び資源管理報告会

①ナマコ資源調査

1月10日に糸数副会長と組合員が2名で鳥島地先にて資源量モニタリングを実施した。2名の漁業者が2時間目視確認したところ、トゲクリイロナマコは3個体のみしか確認できなかった。

②資源管理報告会

2月12日に組合長・会計主任・組合員に対し、ナマコ資源管理・ヒトエグサ養殖先進地視察、ナマコ資源調査結果、ヒトエグサ養殖状況報告を行った。県外では種苗放流しても一年程度の禁漁ではなかなか資源回復は難しいこと、久米島トゲクリイロナマコ資源はまだ枯渇状況と言えること、仲与志・伊関組合員のヒトエグサ養殖が順調である事を報告し、複数年の禁漁が出来ないか意見交換を行ったところ、組合長が3年間の禁漁を理事会議案として提出する意向を示された。

4. 考察

まず課題だが、奥武島北養殖場のヒトエグサ

は生育が早いものの、1月下旬になるとシオミドロが藻体に付着し、収穫ができなくなってしまう。適正な収穫時期・もしくは場所の探索が必要である。

生産者部会は特定区画漁業権に比べ、部会員が多いため、近い将来必ず網設置場所の問題が発生する。組合員の軋轢を生じる前に早めに話し合いの場を持って頂きたい。

最後に加工だが、加工場設備が助言通りとは言えない内容になっており、不安が残る。巡回時に相談という形であるので、できれば、関係者一斉に集まった話し合いの場を設けて頂けると、当職としては安心である。

今年度は3つの大きな成果があった。

①生産部会設立設立、②仲与志・伊関組合員が養殖網一枚当たり22kg/枚、③組合長が3年間の禁漁を理事会議案として提出する意向を示されたことである。

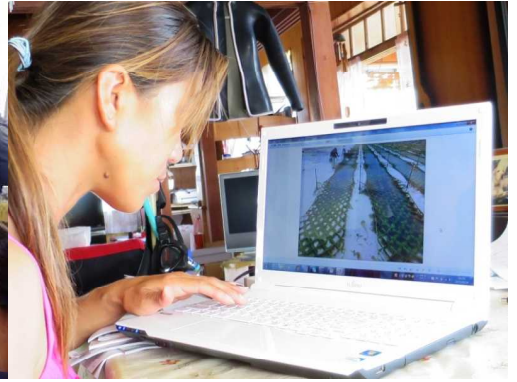
①は規約中に漁協一元集荷・イノー漁業振興を明文化したことが非常に大きいと思われる。今後久米島の特色を生かした部会活動を行う上で、重要な役割を示すと思われるし、漁協経営の手法として、明文化からの実施は漁協職員の創意実現の後押しになるため、小さなことではあるが、大事に取り組んで頂きたい。

②はまだ36枚であるため、養殖業として成功したとは言えないが、部会設立・加工事業・水産教育・漁協PR等、様々な波及効果を生み出している。中でも大きいのが③である。組合長はじめ漁協職員等の期待に沿えるよう、総会議決をめざし、必要であれば資料提供等支援を行いたい。

引き続き久米島漁協と連携を取りながら、資源管理活動が少しでも漁協・漁業経営に資するように、また、資するならば支援を続けたい。



久米島漁協アーサ養殖生産部会設立総会



伊関組合員とのネットによる情報交換



佐敷中城漁協北中城支所・恩納村漁協種付け視察



恩納村漁協本張り視察にて登川氏の指導



北中城支所田中組合員による加工への助言



奥武島東ヒトエグサ養殖



養殖アサPR



久米島小学生への摘み取り体験学習



二人の積立金を投げ打ったスパット君始動 宮城北中城支所長・長浜加工場長による加工助言